

ウミガメを守ろう！

問 企画振興課
電話 (84)3162

問 山下芳也(県自然保護推進員)
電話 090(9491)6556

沖永良部島では、おおむね5月から7月にかけて、アカウミガメやアオウミガメ等の産卵する姿が見られますが、世界的にはこれらのウミガメは、絶滅の危機に瀕しています。日本一のウミガメ上陸産卵地である鹿児島県では、昭和63年に「鹿児島県ウミガメ保護条例」を制定し、同条例により、県内の海岸に上陸するすべてのウミガメとその卵を、捕獲・採取・殺傷することは原則禁止されています。

ウミガメは、豊かな自然環境の構成員である貴重な野生生物です。彼らが安心して産卵できる環境づくりに、また、産み落とされた“命”が無事に海へ帰っていただけるように協力をお願いいたします。

ウミガメの産卵行動

①上陸 (10分)

暗くなって波打ち際に接近したウミガメは、警戒心が強く、すぐには上陸しません。しばらくは波間にたどい、十分安全を確かめてから上陸します。砂浜に上がったら、しばらく口を砂につきたて浜の様子を調べます。

上陸したら、少し歩いては頭を上にあげ、大きく息を吸った歩くといったことを繰り返しながら産卵場所を探します。

②穴掘り (20分～30分)

産卵場所が決まると、前後の足をつかって体が砂に沈むくらいの深さになるまで、砂をかきわけます。

次に後足を使って直径20～30cm、深さ50～60cm程度の穴を掘ります。

③産卵 (20分)

穴掘りが終わったら、穴のはしに、後足をおき10数秒おきに2～3個の割合で20分ほどかけて産卵します。卵の大きさはアカウミガメで直径40mm前後あり、色は白でピンポン玉に似ています。アオウミガメはそれよりひとまわり大きな卵(45～47mm)を産みます。

1回の産卵で100～140個くらい産み、同じカメが1シーズンに2～5回上陸をするため、500～600個の卵を産むものと推定されています。

④穴埋め (30分～40分)

産卵が終わったら後足を交互にを使って砂を中へ入れます。穴が埋まってくると砂を押し固め、さらに砂をかぶせるという作業を数回に分けて行います。

⑤帰海 (5分～10分)

卵が完全に埋まったら、産卵した場所をカメフラージュするように砂を後方に飛ばしながらしばらく進みます。それから海へ帰って行きます。

●過去の実績

年 度	26	27
上陸確認回数	77	81
産卵確認回数	52	64
卵盗掘確認件数	0	0
捕獲許可件数	0	0
捕獲協議件数	0	0
産卵観察会件数	2	8
子ガメ放流会件数	0	0



ウミガメ観察会日程 19:00 与和の浜集合

～ウミガメ観察時の注意事項～

ウミガメは非常に警戒心が強く、光を照らしたり驚かせたりすると、上陸しなかったり、上陸しても卵を産まずに途中で海に戻ったりすることがあります。産卵を観察する際には、次のことに注意しましょう。

- ・暗くなった海で騒がない
- ・海岸でライトやマッチなどをむやみに点灯しない。
(タバコも控えること)
- ・波打ち際をむやみに歩き回らない。
- ・産卵場所にゴミを捨てない。
- ・上陸中や穴掘り中のウミガメに近づかない。
- ・産卵中のカメにむやみに近づいたり、光をあてたりしない。
- ・ウミガメにむやみに触らない。
- ・人間本意ではなく、ウミガメの産卵をみせてもらうという気持ちで観察する。

ご協力をお願いします！



「沖永良部ウミガメネットワーク」 <http://bird.amamin.jp>